

## 環境ビジョン 1

### 多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、その地域の風土や心身ともに健康的な暮らしを営むために恩恵を与えてくれる多様な自然生態系の一員として存在しています。しかし、わたしたち人間の身勝手な自然破壊による影響は、今や地球上のあらゆる生物多様性だけにとどまらず、生命の危機というところにまで議論が及ぶようになりました。

多様な生態系を育み、二酸化炭素の吸収や水源涵養などの公益的機能としてだけでなく、地域の文化や風土、産業発展の基礎として、あらゆる生命の源である自然環境を保護し、維持・保全しなければならないという意識は世界中で高まり、具体的な活動や研究、開発等が進められています。

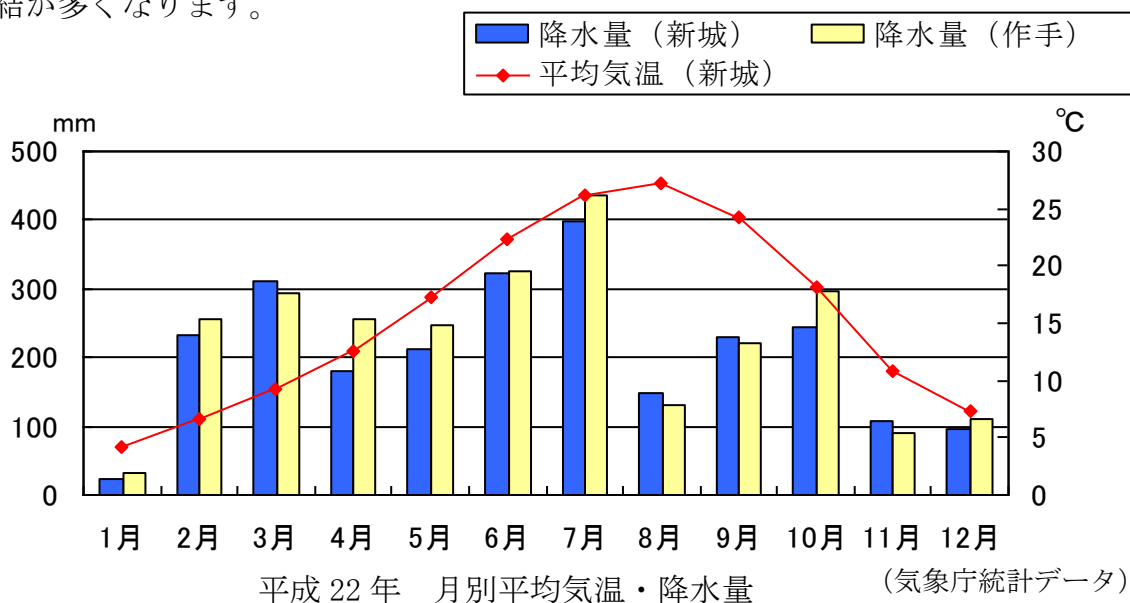
本市には、幸いにもまだ、多種多様な野生生物が生息する豊かな自然環境が市全域にわたり存在しています。

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながらも、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

## 【自然環境の把握】

### 1 気候

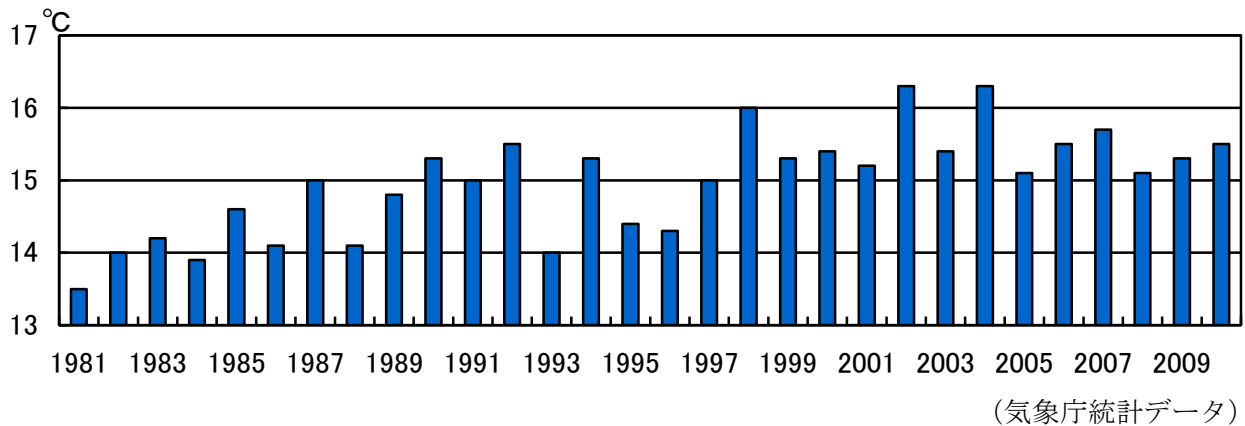
本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約15℃と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約12℃となり、市域内で2～3℃の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が多くなります。



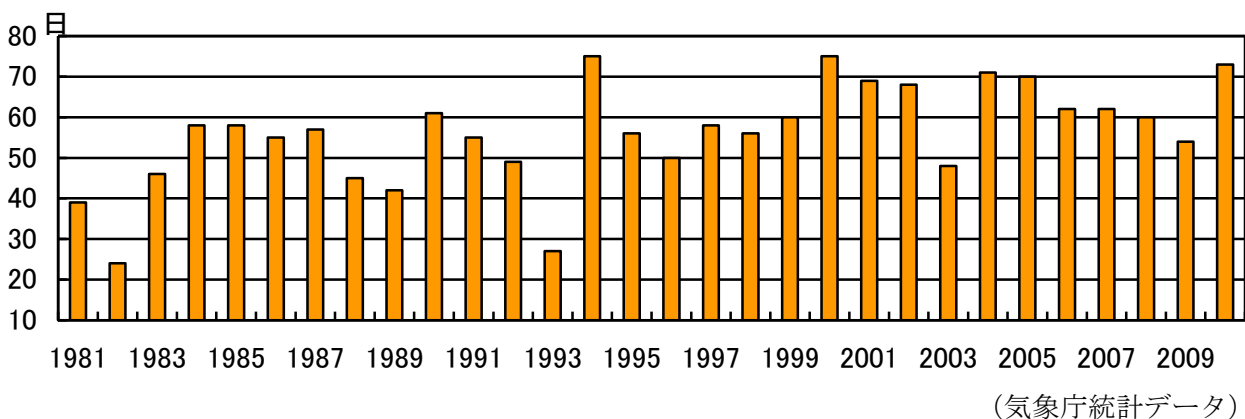
1981年から2009年までの29年間のデータを比較すると、年平均気温は上がったたり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。特に1997年以降、年平均気温が15℃を下回ることはありません。

また、最高気温30℃以上の「真夏日」日数、最低気温0℃未満の日数においては、直近の10年間と1981～1990年の10年間とを比較してみても、温暖化傾向にあることがわかります。

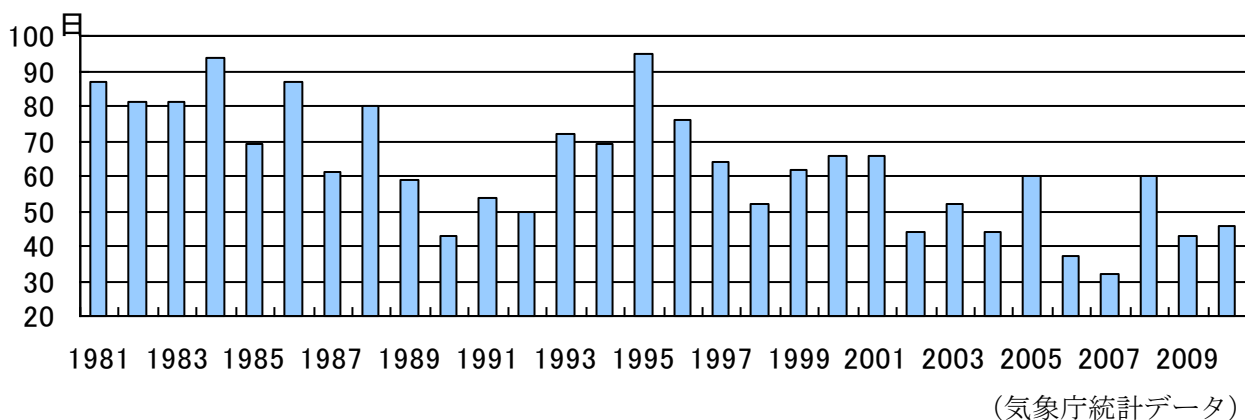
### 【年平均気温の推移】



### 【最高気温30℃以上の日数】



### 【最低気温0℃未満の日数】



※観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

## 2 地形・地質

段戸高原を源とする豊川（寒狭川）と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川帯で構成されています。これらは、平坦地が洪積層・沖積層となっています。



作手地区 長ノ山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から6か所の湿原が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

## 3 植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余種確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝および天然記念物に指定されています。

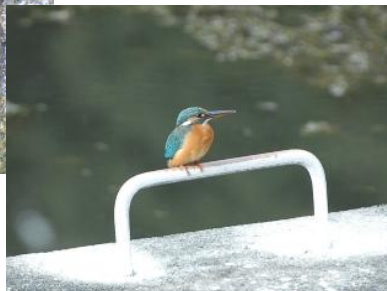
豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

#### 4 動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地および外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	雁峰山から本宮山にかけての北部山地と東部および南部の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られる。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）の生息地、山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されている。
鳥類	豊川やそれにそそぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息している。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息しており、桜淵公園だけでも年間を通して約80種の野鳥が確認されている。また、鳳来寺山や作手地区の山々には「仏法僧」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されている。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されている。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれている。
昆虫類	本市の様々な植生により多くの種類が確認されている。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ多くのセミ類やトンボ類、チョウ類、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなど生息するとされている。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイ・カシ林に生息するとされるヒメハルゼミの確認が難しくなるとともに、その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受け確認事例が減少傾向にある。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されている。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。最近では、ペットとして飼われていた外来種が巨大化などにより自然に放たれることにより、在来種の生態系への影響だけでなく、人への危害も懸念されている。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエル、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されている。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できる。



## 1 保全と創出

### ●豊かな自然の保全

【生命の源としての自然の確保】、【生物生息空間の保全・維持】

### ●身近な自然の創出

【原風景の回復】

《四谷の千枚田の特徴》

千枚田のある四谷地区は鞍掛山（標高883メートル）の南西斜面に広がる山間集落で、石積みの棚田は、標高220メートル付近から鞍掛山頂に向かって標高430メートル付近まで広がっており、その標高差は約210メートルにもなります。また、棚田は、鞍掛山を水源に持ち、四谷の千枚田を囲むように山あいには大代、大林、身平橋、田の口の4集落で構成されています。

鞍掛山の中腹からこんこんと湧き出てくる水は、毎秒20リットルで潤れることも無く、昔から大雨が降っても濁らず、生活排水の混入もなく、石積み水路と透明感のある清水が三筋の沢として流れ、棚田を潤しています。

傾斜地山林を苦勞して開墾し、構築された石積みは、鞍掛山の転石や山崩れで流出してきた石だけを積んだ棚田であり、また石積みの土地に家屋も建築しており、独特の石垣風景を呈しています。これらの自然石による石積み棚田、鞍掛山、豊富な水が正面から一望できる素晴らしい光景は訪れる人の心を和ませています。



《千枚田の魅力・能力》

山の傾斜地に作られた千枚田は、そのあぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。

山の斜面や丘陵地に段々と折り重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田の風景の美しさは、はるか太古の昔から日本の原風景として日本人の心に潤いとやすらぎを与えて来ました。

「四谷の千枚田」は大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしい米（棚田米）を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれて奥深い魅力を秘めています。常に水をたたえて豊かな緑を育む田は、様々な動植物にも生息空間を提供しています。「四谷の千枚田」ではモリアオガエルの卵も見られます。

《鞍掛山麓千枚田保存会》

千枚田の保存活動を通じて、農業労働力の確保と農業振興および地域の活性化を図るため組織されたグループです。活動内容としては耕作放棄地の解消に取り組むとともに「田植

え体験」「稲刈り体験」「生き物観察会」など都市と農村の交流も図っています。この他にも水路、里山の環境整備を行い、美化活動にも取り組んでいます。

◇鞍掛山麓千枚田保存会(平成22年度活動実績)

実施日	活動内容
4月7日(水)	横浜ゴム新城工場新規採用職員社員研修(4年目) 内容:新入社員34名、総勢47名参加 ふれあい広場環境整備及び千枚田概要説明
5月8日(土)	新城高校農業クラブの育農学習 内容:農業クラブのメンバー、自主的参加の生徒、約40名参加
5月22日(土)	方瀬集落生活道路の景観整備 横浜ゴム千年の杜第二期植樹祭参加
5月26日(水)	保存会、連谷お助け隊合同の景観、環境整備活動
6月5日(土)	第5回お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」 沢山の方々の手でろうそくに次々と火が灯され、美しい空間が作り上げられた。主催:連谷お助け隊
6月19日(土)	鳳来寺山自然科学博物館主催「生物多様性を学ぶ現地見学会」
7月25日(日)	保存会、連谷お助け隊合同の千枚田施設補修作業
9月9日(木)	東海農政局土地改良技術事務所技術指導官現地研修会
10月8日(金)	アストラゼネカ社社会貢献活動受け入れ(AZ社員22名)
10月18日(月)	ドイツ議員来訪
10月23日(土)	東海農政局主催COP10公式エクスカージョン 内容:世界15カ国、21名訪問
10月22日~23日	第16回全国棚田サミット参加(13人) 於:静岡県松崎町
11月21日(日)	保存会、連谷お助け隊合同 環境整備活動(四谷地区大林地内)
1月29日(土)	滋賀県大津市仰木の農家19名 獣害対策視察 内容:獣外対策の情報収集及び意見交換
2月5日(土)	国際交流 アメリカ農業クラブ来訪



横浜ゴム新城工場新規採用社員研修



新城高校農業クラブの育農学習

◇豊橋調理製菓専門学校千枚田活動事業

実施日	活動内容
5月13日(木)	食育学習 田植え実体験(40人参加)
6月10日(木)	生息環境調査、田の草取り、 梅の収穫(40人参加)
9月9日(木)	稲刈り(38人参加)
9月29日(水)	脱穀(35人参加)



《地域の活動》

「田吾作」

耕作者の高齢化などにより棚田の耕作ができなくなった農地を借りて、減農薬、有機栽培での耕作に極力努め、耕作放棄地の解消を図っています。ここで収穫したもち米を活用して都市住民を交え、棚田で昔ながらの杵と石臼で餅つき大会を行うなど都市と農村の交流も行っています。

「連谷お助け隊」

地区内の若者有志が中心となり、平成17年に開催された「全国棚田(千枚田)サミット」の支援組織として発足し、その後、千枚田保存会、田吾作、直売所などと協力しながら、環境景観整備、耕作支援、地域活性化活動、都市農村交流活動など地域への幅広い事業をサポートしています。

「連谷小学校」

地元の連谷小学校は複式学級の児童数10名の小さな学校です。地域の自然や社会を生かした全校活動として総合的な学習の時間を使い、「四谷の千枚田」で田おこしから脱穀まで稲作の1年を通じての作業を「学校田」として全校で行い、平成19年度からは『千枚田で生きる』というテーマで、食育も大きく位置づけて取り組み、地域の方と一緒に活動しています。

実施日	活動内容
4月26日(月)	田起こし
5月10日(月)	代かき
5月20日(木)	田植え
6月16日(水)	草取り
8月23日(月)	田の草取り
9月2日(木)	案山子立て
9月29日(水)	稲刈り
10月13日(水)	脱穀
10月27日(水)	もみすり
11月27日(土)	もちつき



## 【自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり】

### 《景観セミナー》（都市計画課）

一番身近な生活景観である町並みにスポットをあて、これからも住みたい、子どもにも住んで欲しい、「住みたくなるまち“新城”」になるために、今、自分たちで何ができるのか、何が必要かを考えるための「景観セミナー」を開催しました。

愛知県立芸術大学教授野田理吉<sup>の だ り き ち</sup>氏を迎え、他市の成功例や景観を保全する上で起きている問題、さらに城下町として栄えたころの面影を残し、神社や仏閣などが点在する歴史的景観との調和を保ちながら形成する新城らしい町並みづくり、地元材や緑を生かした町並みづくりの提案など、分かりやすく説明していただきました。

日 時：平成22年12月6日(月) 午後7時から

場 所：新城市商工会館2階研修室

講 師：愛知県立芸術大学美術学部

教授 野田理吉<sup>の だ り き ち</sup>氏

内 容：講演

「あなたの心に残る住みたくなるまち  
“新城”～今、私たちにできること～」

参加者：19名



### 《景観講座》（都市計画課）

都市計画課では景観まちづくりの一環として、小学校高学年を対象とした景観講座を開催しました。新城市の良さを知るとともに、その良さを守り次世代に残すための方法などを考えるきっかけとして、社会科及び総合学習などを利用し、景観について学んでいただくために行いました。

#### 第1回

日 時：平成22年5月26日(水)

開催校：鳳来寺小学校

参加者：5年・6年生 7名

#### 第2回

日 時：平成22年12月1日(水)

開催校：東郷西小学校

参加者：5年生2クラス 54名





## 《新町地区まちづくり協議会》

### 平成22年度事業概要

#### ①ひだまりパーク・街路樹「陽光」の管理

陽光桜の手入れを行うとともに新桜通りの清掃を定期的の実施し美化に努めました。ひだまりパークの管理においては、案山子・イルミネーション・門松などを飾り付け、四季の演出を行いました。



平成22年 7月10日撮影



平成22年 9月27日撮影

#### ②まちなか景観向上のための活動

花のまちづくりの実践としてガーデニング講習会を開催し、講習会で作った寄せ植えを東新町駅舎に設置しました。新桜通りでは、フラワーポットを継続して設置しました。ひだまりパークにゴーヤと朝顔を栽培し、緑のカーテンを実施しました。新桜通りふえすたのイベントとして「花灯路(はなとうろう)」を開催しました。食彩園「やどかり」では、コスモスを栽培して「秋桜迷路」を作りました。

#### ③まちづくり憲章の周知

商工会主催の新桜通り夜店に参加し、まちづくり憲章が書かれた「エコうちわ」を来場者に配り、周知を図りました。

#### ④協議会活動の輪を広げる

多くの人にまちづくり活動を理解し、参加してもらえるよう、伝統的な町並みの面影を今に伝え、住み続けるまちとして接する人々に安らぎを与え、心の豊かさをもたらしている奈良県奈良市「ならまち」を視察しました。また、東新町公民館まつりに参加し、食彩園やどかりで栽培した大根を使った「やどかりおでん」の試食を行い、地域の方々との交流を深めました。

#### ⑤その他

- ・第20回全国花のまちづくりコンクール  
団体部門入選（同推進協議会主催）
- ・新城市市制施行五周年表彰 感謝状受領



平成23年 3月16日撮影

◇新町地区まちづくり協議会(平成22年度活動実績)

実施日	活動内容
4月13日(火)	例会 総会について
4月23日(金)	総会
5月18日(火)	例会 22年度事業について
5月23日(日)	作業 新桜通りの花の植え替え・陽光桜の剪定
6月15日(火)	例会 夜店参加について
6月27日(日)	作業 ひだまりパークの七夕の飾りつけ
7月13日(火)	例会 夜店参加・視察について
7月24日(土)	新桜通り夜店参加 まちづくりエコうちわを無料配布
8月22日(日)	作業 やどかり花の種まき
8月24日(火)	例会 視察について
9月19日(日)	作業 新桜通りの芝生の手入れ・やどかり花の種まき ひだまりパーク案山子の設置・草取り
9月21日(火)	第20回全国花のまちづくりコンクール 団体部門入選
9月23日(祝)	視察 奈良県奈良市「ならまち」
10月3日(日)	新城市市制施行五周年表彰 感謝状受領
10月5日～	「秋桜迷路」開催
10月26日(火)	例会 東新町公民館まつり参加・花の植え替えについて
11月7日(日)	例会(作業) 新桜通りの花の植え替え
11月17日(水)	作業 ひだまりパークにイルミネーション設置
11月28日(日)	東新町公民館まつり参加 やどかりおでんの試食会
12月7日(火)	例会 新桜通りふえすたについて
12月12日(日)	作業 ひだまりパークに門松設置
1月18日(火)	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月8日(火)	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月20日(日)	ガーデニング講習会開催 作業 ひだまりパークのパーゴラ防錆剤塗布
3月2日(水)	例会 新桜通りふえすた・総会について
3月13日(日)	作業 東新町駅にガーデニング講習会の花を20鉢設置

## 2 ふれあい

### ●自然に親しむ

#### 【自然に親しむ心の醸成】

子どもの頃から日常的に自然に親しみ、ふれあう機会をつくることで、自然を大切にす  
る心を醸成します。

## 《園児が鮎とアマゴの稚魚放流》

平成22年5月18日(火)、庭野地区の豊川左岸で、新城幼稚園の園児97人が鮎とアマゴの稚魚を放流しました。園児が放流した鮎の稚魚など約3,000匹は、豊川を元気に遡上<sup>そじょう</sup>していきました。

川の豊かさや楽しさを知ってもらおうと、豊川上漁協と市観光協会が、毎年鮎釣り解禁日を控えた時期に、地元の園児を招待して行っている。

園児たちは素足で浅瀬に入ると、バケツの中の魚を川へ放し、魚が元気に泳ぎだす姿に大きな歓声をあげていました。



## 《親子せせらぎエリア》(生涯学習課)

市最大の特徴である自然環境は、住民の居住空間そのものであり、これを市民共有の財産として、良好な状態で将来に引き継いで行かなくてはなりません。

教育委員会では、子どもの頃から、新城のすばらしい自然にひたり、ふるさとのよさを体感できるよう、「親子せせらぎエリア」を設けました。

水がきれいで、浅瀬で安全性があり、近くに駐車場やトイレのある、地元のご理解の得られた3箇所です。

開設期間：平成22年7月31日(土)～8月16日(月) 午前10時～午後4時

開設日数：17日間(内中止1日)

利用者数：大人 534人 こども 484人 合計 1,018人

内訳：

場所	新城・牛倉地区 大宮川	鳳来・川合地区 乳岩川	作手・善夫地区 菅沼川
大人	41人	45人	448人
こども	41人	53人	390人
計	82人	98人	838人



### 新城・牛倉地区の大宮川

- 井ノ口橋下流50メートル・仮設トイレあり、駐車場は牛倉公民館
- 大宮川の河川改修により誕生した親水エリアです



### 鳳来・川合地区の乳岩川

- 中流付近50メートル・駐車場、トイレは入山入口
- 天竜奥三河国定公園内にあり、水はすきとおり大変きれいです



### 作手・善夫地区の菅沼川

- 善夫橋下流50メートル・駐車場、トイレは「涼風の里」
- 小さな産直物の販売と軽食を出す「豊登き屋根」の付近です

